

河川砂防技術研究開発公募(流域計画・流域管理課題分野)平成23年度採択テーマ

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
<p>水害ハザード情報の都市計画系の計画への反映状況の実態把握と都市計画的手法による市街地が抱えるリスクの低減可能性の分析(研究期間:H23年~H24年)</p>	<p>東京大学 加藤 孝明</p>	<p>A</p>
<p><研究概要></p> <p>浸水想定区域図やハザードマップによる大規模「水害ハザード情報が都市計画系の行政計画にどのように位置づけられているか」実態把握を行い、現状に至る背景について明らかにした。また「都市計画的な手法により市街地側での対策を進めたとした時に市街地が抱えるリスクがどの程度、軽減され得るか」を分析、把握を行った。なお、対象は基本的には、荒川氾濫域とすることとした。さらに、今後の都市計画と水害リスク軽減方策の関係のあり方として、「浸水対応型市街地形成の戦略」について提言を行った。</p>		
<p><事後評価コメント></p> <p>現状分析から避難空間が不足していることを明らかにするとともに、市街地の動向分析から今後のリスク低減可能性を分析する等、研究目的は達成され、十分な研究成果があった。</p> <p>今後は都市計画の分野で災害に強い都市づくりのあり方や、災害リスク低減を実現する制度等の提案につながることを期待される。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い